

平成26年度

自己点検・自己評価

若狭医療福祉専門学校

自己点検・自己評価

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1

①課題・改善点

理念は学園の理念として掲げられたものである。学外へどのように公表するかという課題については、4月の入学時に新入生、保護者にむけて学校の姿勢を伝えている。ホームページへ導くための工夫として、ブログを活用するようにした。学生ブログも学生が更新している。

②今後の方策

学校の将来構想を描き、先を見据えた中期的計画の再考時期にきている。今後新たな事業をさらに展開していく計画もある。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや適切… 2、不適切… 1			
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・ 意思決定システムは確立されているか	4	③	2	1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

①課題・改善点

昨年度後半より、現在のシステムについて、効率化を図れるよう進めている。
個人情報保護にかかわるセキュリティについてもさらに強化をしていくことを検討している。
意思決定の階層・権限などを明確にしていくことも業務の効率化につながると捉えることも重要である。

②今後の方策

情報システムの効率化、セキュリティの強化を進めているところである。
意思決定の階層・権限の明確化、意思決定プロセスのしくみづくりが必要である。
学校運営をスムーズにできる体制を整えていく。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや適切… 2、不適切… 1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

①課題・改善点

社会人基礎力が全学生に身につくよう、また人生設計を含めたキャリアデザイン、キャリア教育の導入が全学科で必要である。今年度は医療秘書科において、科目としてキャリアデザインを導入。その他の学科においても1年次より導入が必要だと考える。
学校として組織的・恒常的に教員の質（教育力）を高めていくことが必要不可欠である。

②今後の方策

入学直後からキャリアサポートプログラムへの取り組み。第一段階として、新入生一泊研修を実施。
教育課程編成委員会の活用（業界団体等との連携）
定期的に教職員研修を実施している。月に一度テーマを変えて勉強会を開催。

(4) 教育成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや適切… 2、不適切… 1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 ② 1

①課題・改善点

年々デリケートな学生が増加している。支援シートを活用した綿密なケアを実施している。しかし、退学者の減少には繋がっていないのが現状である。卒業生の卒業後の現況を十分に把握できていないため、同窓会組織を立ち上げていきたいと考えている。

②今後の方策

退学理由を把握し、低減に活用していくことを継続する。(学生支援シートの活用)
同窓会名簿の作成により、卒業生の現況を把握していくシステムが必要である。
8月1日にホームカミングデーを実施。定期的の実施していくことで、卒業生との繋がりを持ち強みとしていきたい。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや適切… 2、不適切… 1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

①課題・改善点

経済状況が不安定である学生が増加している。日本学生支援機構以外にも既存の奨学金を含め利用しやすい制度も必要になってきている。現在は分割納入などにも対応している。昨年度6割程度の利用者であった。新入生については、計画的に教育費用を準備しているようである。学納金を一括では支払えない学生の減少を図りたい。

②今後の方策

奨学金希望者が増加している現状を鑑み、別の奨学金制度を調査、対応する必要がある。学校として、企業（施設）・自治体への状況説明を実施。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

①課題・改善点

危機管理に関する教育・訓練は今後の課題である。

②今後の方策

有事における対応についての訓練を繰り返すことによって認識を高めていく。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

①課題・改善点

少子化、大学全入時代の中、専門学校希望者は年々減少している。
体験入学やイベントを魅力あるものにすることや他校との違いをアピールする。
体験入学を評価する体制を導入し、工夫を促した。
学納金の変更についても検討が必要である。

②今後の方策

全職員が計画的に学生募集にあたることを意識して取り組んでいく。
学生募集上の訴求度を高めることになるため各種データを正確に収集し伝えることが必要。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや適切… 2、不適切… 1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 ③ 2 1

①課題・改善点

今後の学生減少対策に向け、学科の改編など中長期的な取り組みが必要である。

②今後の方策

学校の今後の方針を理事会、経営戦略会議等で具体的に検討していく。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題・改善点

個人情報については学校全体で保護を図っている。特に個人データ、外部秘データ取扱いの注意は周知徹底、意識啓発を継続的に行っている。
自己点検・自己評価結果は一部ホームページを通じ公開している。

②今後の方策

個人情報など運営上漏洩してはならない情報の管理についての規定を整備する必要がある。
自己点検・自己評価結果はホームページ上で公開しているので、継続する。
じゅうぶんなセキュリティ対策を講じる。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

①課題・改善点

学校も学生も地域に受け入れてもらえるような地域社会と連携する取り組みを行っていく。
引き続き、学校全体で意識してボランティア活動を支援している。
学生も昨年以上にボランティア活動に対する意識が高まっている。
学生と地域の方々との交流ができる機会を多く設定している。

②今後の方策

地域からの要望・提案を受けられるシステムづくりを検討する。
地域の方々に学校に来ていただけるような学生主体の活動をさらに取り入れる。
地域の方や専門職にも足を運んでいただけるよう講演会などを計画している。
嶺南地域の高校へ出向き、部活動単位でのフィジカルチェックを定期的実施していく。